

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.22

日時	2013年7月27日
行脚先	高松城
住所	香川県高松市 (讃岐国)
行事名	

特徴

別名「玉藻城」。

これは、万葉集で柿本人麻呂が讃岐国の枕詞に「玉藻よし」と詠んだことに因み、高松城周辺の海域が玉藻の浦と呼ばれていたことに由来すると言われています。

豊臣秀吉・黒田官兵衛らの四国制圧の後、天正15年(1587年)に讃岐1国の領主となった生駒親正は、翌16年「野原」と呼ばれていた地を「高松」と改め、高松城の築城を開始しました。

伊予国今治城、豊前國中津城と共に「日本三大水城」の一つに数えられています。

昭和30年(1955年)に国史跡に指定され、現在は三重櫓や門など一部の建物と一部の石垣、堀が現存し、城跡は「玉藻公園」として整備されています。

黒田官兵衛との関わり

縄張りは当時築城の名手と言われていた黒田官兵衛らが手がけたそうです。

全国でも珍しい水際城であり、昔から「讃州さぬきは高松様の城が見えます波の上」と謡われていたそうです。

日本初の本格的な海城とも言われており、城壁が瀬戸内海に直接面し、城内に海水が引き込まれ、直接軍船が出入りできるようになっていました。

海上封鎖が難しく、水攻めや水断ちといった攻城手段が使えないため、籠城や物資の搬入、脱出が容易に可能であり、近世の縄張りとしては有利であったそうです。

記録

